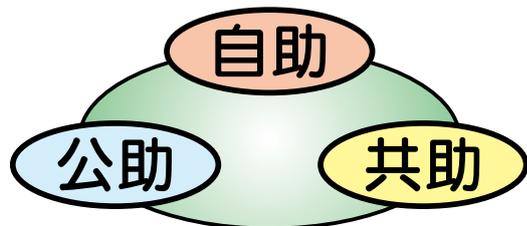


昨 年3月11日に発生した東日本大震災からまもなく一年が経過します。今回の震災では、「地域の絆」の強さや大切さが大きく報道されました。

大規模災害が発生し、一刻を争うような場合は、「自分の身は自分で守る」という「自助」と「自分たちの住んでいる地域は自分たちで守る」という「共助」の精神が重要となります。

自主防災組織とは？

自主防災組織とは、地域住民が連携し、防災活動を行う地域の自主的な防災組織のことをいい、災害時には、被害を最小限に抑える取組を行います。



私たちは、平成7年に起きた阪神・淡路大震災を契機に、自主防災組織の必要性に気づかされ、昨年の東日本大震災以降、自主防災組織の存在感が高まっています。

自主防災組織の規模に定まったものではありませんが、お互いに連帯感が生まれ、組織活動が効果的に行える規模が適当です。現在、桂川町では、町内を7つの区域（※4ページ参照）に分けた自主防災組織の設立について、各地域の区長さんを中心に取り組んでいます。

なぜ自主防災組織が必要なの？

大規模災害が発生した場合、町を含めた公共の防災機関は総力を挙げて救援活動を行います。すべての地域に対応することは困難です。東日本大震災では、道路が不通となり、ライフラインが寸断、さらに行政機関の被災などで、思うように活動を行うことができませんでした。

そんなときは、「自分たちのまちは自分たちで守る」つまり、自主防災組織しかないのです。

しかし、各自がバラバラに行動しても個人の力には限界があり、かえって危険な場合もあります。そこで、近隣住民と協力し合い、組織的に行動すれば、より大きな力

が発揮できます。ここに自主防災組織の必要性和重要性があります。

自主防災組織づくりで大切なのは、地域の皆さんが自分たちのまちは自分たちで守るという連帯感に基づいて自主的に結成されることです。地域の皆さんが集まり、どうすればいいのかということを中心に議論され、盛り上がったこそ初めて活動的な組織ができます。

「あなた自身や家族」、「地域の皆さん」のため、自主防災組織への積極的な参加をお願いします。

自主防災組織の活動って？

- 緊急時の連絡網などの作成
- 緊急時に連絡・避難ができる隣近所の体制づくり
- 周りの手助けが必要な人（避難困難者）も一緒に避難できる体制づくり
- 危険箇所の把握
- 避難経路・避難場所の確認
- 防災に対する心構えなどの啓発
- 災害を未然に防ぐための巡回
- 防災訓練の実施など

【問合せ先】 総務課 庶務係

☎ 65・1100